『風と共に去りぬ』の女性たち－ベストセラーの要因－

下　家　久　枝

『風と共に去りぬ』と聞けば、誰もが南北戦争の中を生きぬいた女性スカーレット・オハラとレット・バトラーの恋物語と考えがちであるが、この物語は恋物語と簡単に終わらせることができるのだろうか。私は特に、この物語に登場してくる女性たちについて考えていきたい。なぜなら彼女らは、この時代にしてはめずらしい程の勇気と強さを持っているからである。その中でも主人公であるスカーレットとメラニーについて私は考えたい。

まずスカーレットについて言うならば、彼女は生まれながらにして自分の考えを行動に移すことができる強さや、欲しい物のためなら何でもするという男まさりの性格であるが、彼女はいつも孤独というものを感じていたのではないだろうか。妹たちともあまり仲良くなく、失恋のショックやお金のために、好きでもない男性と結婚してしまう。さらに、彼女の風変わりな性格が災いして、町の人達からも受け入れてはもらえない。私は周囲の厳しさが、彼女をより一層強くさせたのだと思う。だから私の中のスカーレットは、いつも一人ぼっちで最後まで本当に幸せになることのできなかった、かわいそうな女性として生きているのである。

反対にメラニーは、非常に優しく、その時代の女性を代表するような人物として誰からも慕われてきた。しかし、彼女のこのような行為はスカーレットと共に生きてきたから行えたものであると私は思う。もしもメラニーが一人で生きていかなければならないとしたら、その優しさも生きるためには何でもするという強さに変えざるをえなかったのではないだろうか。彼女の優しさは、周囲の助けがあったからこそ、続けることができたのである。

この２人の女性たちは、一見すると相反した性格であると思われる。しかし彼女たちの内側にある強さは、これまでの女性たちとは違っていた。女だから男だからではなく、女でも何でもするという考えがあったからこそ、彼女たちは一緒に暮らすことができたし、気付かないうちに、お互いの足りない所を埋めあってきたのである。つまり物語には大々的には表されていないが、この物語の中には女性の友情も描かれているのである。だからこそこの物語は、今でも多くの人々によって研究され、世代を問わず誰からも愛されるベストセラーとして、今日まで続いているのだと私は考える。

（指導教員　中村　敦志）